

柳川郷土研究会  
会誌「水郷」付録

すいきょう

# 瓦版

発行所 柳川郷土研究会  
柳川市本城町 113-1  
発行人 武松 豊  
編集責任者 金子俊彦



## 土竜(もぐら)の囁き

七〇才で他界した兄の供養のため東京帰りに吉良家の菩提寺「華蔵寺」に詣つた。境内には中学三年生の男女が写生をしていたが全員気持ちよい挨拶をしてくれた。吉良地区の淳風だろがかと思ひ中学校長先生あてにお礼の手紙を差し出した。教育の成果を認めて頂きありがたうの礼状がきた。その後、吉良の菩提寺には二度程御参りしたが、大石蔵助の赤穂には一度も行つたことがない。そのうち一度は尋ねたいと思つている。ところで、忠心蔵の関係の資料収集と事実の研究家中島康夫氏によれば、映画芝居で見られる討ち入りの折りの山鹿流の陣太鼓は創作で太鼓は持参しなかつた。又、炭小屋に隠れている吉良上野介を発見し、一同揃つた所で首を討つシーンも嘘、実は上野介も台所で斬り死にしたとのこと。意外なのは、内蔵助が最も信頼した同志は大高源五・中村勘助・潮田高教だったとのこと。又、「昼あんどん」と言われた内蔵助が実は優秀な管理職型であつたらしく亡き殿の妻「瑤泉院」からの借り入れ金の用途なども詳しく明らかに記録している。そんなことから一般化している物語でも創作が多いことに気が付く。歴史に興味を持つものは真偽の追求が求められていると痛感した。

(土竜)